◇◆市立中央病院特集◆◇

# 高度な技術で、安心な医療を提供

平成19年度に外部委員を交えた委員会で、市立中央病院の今後のあり方を検討し、答申を取りまとめました。答申では、救急医療体制の充実、県立西宮病院との連携、総合的ヘルスケア対策、経営形態の見直しなどが提言されています。この答申を受け、現在、提言内容の具体化に向け検討しているところです。

今後もスタッフ一同が力を合わせ、「高度な医療を優しく、確実に」をモットーとして、地域に医療を安定的かつ継続的に提供します。

問合せは市立中央病院総務グループ（0798・64・1515）へ。

救急医療体制

## 内科・小児科・外科の 2次救急医療体制を整備

市立中央病院は、急な発熱やケガなど夜間の救急医療ニーズにこたえるため、救急医療体制を整備しています（左表参照）。今年7月からは「内科2次救急診療」を土曜日の午前9時から正午まで拡充しました。

このほか、少子化対策などから必要とされる小児科2次救急診療および外科領域では2次救急診療のほか1次救急診療を行っています。

救急医療の受け入れ対象は次のとおりです。

**●2次救急（内科・小児科・外科）**

2次救急診療は、地域の開業医からの紹介患者または救急車による搬送患者など、主に1次救急診療（対象は比較的軽症な患者）を担当する医療機関や診療所から転送される入院・手術などの必要な救急患者を対象にしています。地域の診療所で診療を受け、検査や入院が必要とされた人を、市立中央病院で検査したり、入院患者として受け入れることができます。

診療所では市立中央病院を紹介する際に、患者の皆さんに医師の紹介状を渡しますので、来院の際に持参してください。

**●外科1次救急**

軽度な外傷治療を行い、紹介状がなくても来院可能です。

～市立中央病院の救急医療体制～

| 区　分 | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 金曜日 | 土曜日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 内科2次救急 | 午後6時～9時※ | 午後6時～9時※ | 午後6時～9時※ | 午後6時～翌朝8時 | 午前9時～正午※ |
| 小児科2次救急 | 午後6時～翌朝7時 | 午後6時～翌朝7時 | | | |
| 外科1次救急 | 午後6時～翌朝8時 | | | 午後6時～翌朝8時 | |
| 外科2次救急 | | | | 午後6時～翌朝8時 | |

※印は、祝日にあたる日は診療を行いません

内視鏡センター

## 早期がんを治療 より安全で苦痛を少なく

より安全で苦痛の少ない消化器内視鏡検査・治療を目指して、また患者の皆さんの不安感をできるかぎり取り除くよう配慮するため、平成18年10月に「内視鏡センター」を開設しました。オープン以来、検査や治療を受けられた患者の皆さんにご好評をいただいています。

**◇消化器疾患に強い内視鏡**

内視鏡センターで取り扱う主な検査は、上部消化管内視鏡検査（いわゆる胃カメラ）と下部消化管内視鏡検査（大腸ファイバー）で、これらの内視鏡を使った検査や治療の多くは、同センターで行います。

**◇早期がんは内視鏡で切除**

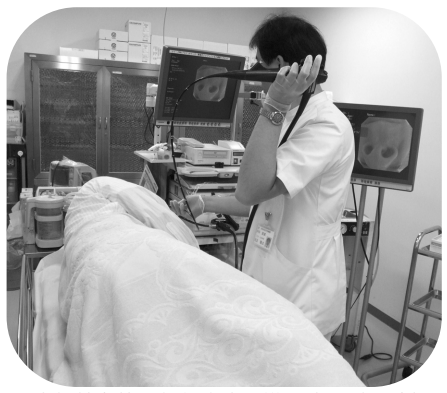
上部消化管内視鏡検査は、平成13年に約1700件であったのが19年には約2500件に、大腸内視鏡検査は、13年に約500件であったのが19年には約800件になるなど、検査件数は年々増加しています（左下グラフ参照）。

また、検査だけでなく、特に内視鏡治療にも力を入れており、早期胃がんや早期大腸がんは、内視鏡を用いた粘膜切除を行います。胃粘膜の下にある層を剥離（はくり）する術式によっても、胃がんを治療できます。いずれも開腹せずに治療を行える高度な内視鏡治療術です。吐血・下血等の消化管出血についても、内視鏡を用いて止血できます。ほかにも、内視鏡的乳頭切開による総胆管結石の治療など、より質の高い医療を提供することを目標にしています。

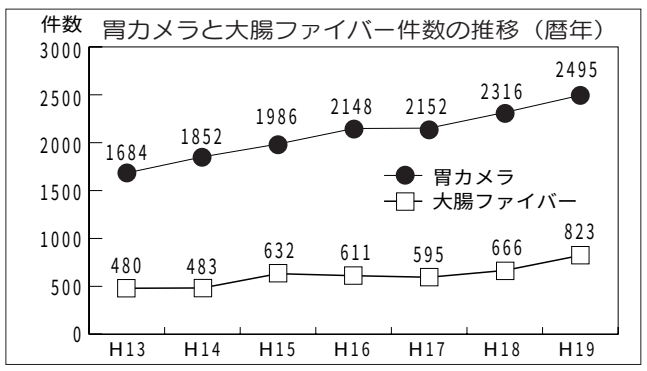
**◇経鼻内視鏡による検査**

「経鼻内視鏡」の導入により、胃カメラが苦手な人でも比較的楽に検査を受けていただけます。

今までに胃カメラの検査を受けた人は、嘔吐（おうと）反射を経験された人も多いと思います。これは、舌の付け根の舌根という場所にカメラが触れ、咽頭反射が起こるための現象です。経鼻内視鏡ではこの違和感がほとんどなく、検査中であっても会話が可能です。



内視鏡を使用した治療の様子（イメージ写真）




呼吸器センター

## 専門チームを組んで 質の高い診断・治療を提供

昨年8月1日、呼吸器内科と呼吸器外科が連携し「呼吸器センター」を開設しました。

これにより、診療科の枠組みを超えて、より効率的な診断・治療が可能になりました。

同センターでは、①専門チームによる診断・治療を行い、その後の早期で円滑な社会復帰を目指すこと、②個々の疾患に対し、医師・看護師等の専門性の高いスタッフを集結し、より高度な医療と低侵襲治療を提供すること、③様々な職種のスタッフが入院中に関わることで、系統立てた治療と質の高いケアを提供することを目的にしています。これらを達成するための専門チームを組織しているのが、同センターの特徴です。

**◇診療対象**

診療対象は、かぜ症候群、気管支ぜんそく、たばこ病と呼ばれるCOPD（慢性閉塞性肺疾患）、肺炎、胸膜炎、自然気胸、肺がん、縦隔や胸膜に起こる腫瘍（しゅよう）などです。

特に、悪性腫瘍の中でも死亡率が高い肺がんは、早期診断と適切な治療が必要です。呼吸器センターでは、気管支鏡検査（気管支ファイバー）のほか、CTや超音波によるエコーガイド下経皮肺生検、胸腔鏡下肺生検により、より早く確実な診断を心がけています。

また肺がんは、その発生部位や組織系、進行度により治療方針が異なるため、病状に合わせて手術療法、抗がん剤による治療（化学療法）、放射線治療など集学的治療が必要になります。同センターでは、内科・外科・放射線科の呼吸器専門医が集まり、個々の症例を検討し、最新かつ最良の治療を提供しています。発足から1年ですが、肺がんの診断を目的にした気管支鏡検査の症例数は、従来の約2倍に増えました。

また、年々増加傾向にある「COPD」には、呼吸機能リハビリ、在宅酸素、非侵襲的陽圧人工呼吸（NPPV）を組み合わせた包括的治療を、「睡眠時無呼吸症候群」には、終夜睡眠ポリグラフィーの精密検査（1泊2日）を行っています。

気管支ファイバー
（写真提供：オリンパスメディカルシステムズ）

## より安定した病院経営に向けた取り組み

市立中央病院では、効率性の高い病院運営を行い、診療機能を充実させることにより、経営基盤を強化するため、「第2次経営健全化計画」に取り組んでいます。

最近の取り組み内容は、下表のとおりです。

| 平成20年　市立中央病院の取り組み | |
|---|---|
| 電子カルテ・オーダリングシステム（※）の導入 | 「電子カルテ・オーダリングシステム」が3月から稼働し、医療の安全性が高まりました |
| 予約センターの設置 | 3月から、患者の皆さんからの申し出による診察時間の変更・各種検査の予約変更を行うための窓口を設置しました |
| 耳鼻咽喉科外来の再開 | 4月から、耳鼻咽喉科の診療体制を充実させ、週2回の外来診療を週5回に増やしました |
| 禁煙外来の開始 | 6月から、呼吸器センターの取り組みの一環として「禁煙外来」を始めました |
| 「特定健康診査」の実施と受付開始 | 平成20年度から始まった新しい健診制度に対応するため、6月から毎週水曜日に「特定健康診査」を始めました |

※電子カルテ・オーダリングシステムとは…従来の紙カルテを電子化し、院内の各部門を通信回線で結ぶことで、患者情報の共有化を進め、業務の効率化と医療の安全性を高めるシステムです

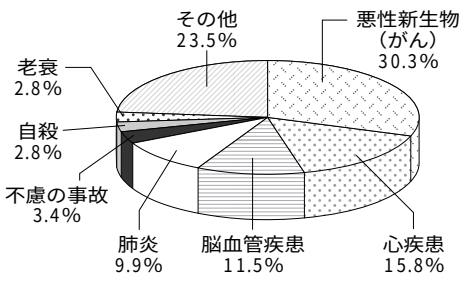
## 人間ドックを受けましょう！

「自分は健康だから検査は必要ない」と思っていませんか？

人間ドックや健康診断は、あなた自身が病気でないことを自覚するだけのものではなく、検査結果を確認し、生活改善を行い、今後の健康を保つためのものでもあります。健康な人でも、定期的に検査を行い、過去の結果と比較することにより、自身の体の変化をいち早く知ることができ、病気を未然に防ぐ有効な手段になります。健康管理のためにも、人間ドックを受けましょう。

**【人間ドックの予約・問合せ先】**健康管理センター（0798・64・1515…月曜～金曜の午前9時～午後4時）

◉主な死因別死亡数の割合（平成19年）




日本人の約27%は、心筋こうそく、脳血管障害など、動脈硬化を原因とする病気で死亡しています。その大きな原因は生活習慣病です。